

モード Mode は語る

中野 香織

繊細でしなやかな表現

今年のモード界最大の話は、ルイ・ヴィトン・メンズのアーティスト・ディレクターに就任したヴァージル・アブローが6月のパリで行ったデビューコレクションだった。7色のランウェイを、南極大陸を除く全大陸出身のモデルが歩く。同ブランド初の黒人ディレクターは多様性の時代を鮮やかに視覚化した。

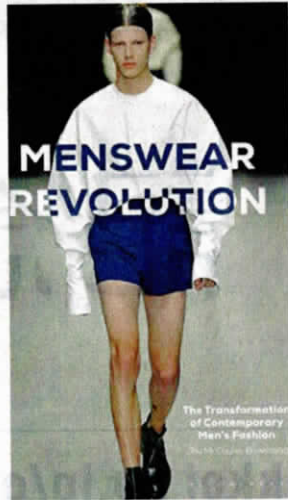
今、ファッションの世界で興味深い現象は、ほぼメンズ領域から起きている。メイクアップまで視野に入れるならば、今年はシャネルをはじめ多くのブランドがメンズ化粧品を出した。

そのようにマーケットとして成長著しく、文化的現象としても話題に事欠かな

「男性らしさ」の革命

いメンズファッションの動きを概観する本をブルームズベリー社が出版した。ジェイ・マコーレー・ボウステッドによる「メンズウエア・レヴォリューション」である。著者はロンドン・カレッジ・オブ・ファッションの講師で、自身もファッション業界で働いた経験をもつ。2000年代以降ダイナミックに変化し続ける業界やメディア状況、男性の身体感覚、そして「男性らしさ」の概念を、豊富な具体例を通して整理し、論じてくれる。

歴史との比較対照もユニークで、2010年代のラフ・シモンズを、1世紀前のココ・シャネルやマドレーヌ・ヴィオネに例えている。シャネルやヴィオネは女性



男性らしさの強調からジェンダーニュートラルへ

服に軽やかさとセクシーさを与え、結果として女性を心身共に解放した。同様にシモンズは、制服のような男性服のシステムを排し、男性服に柔らかさや華やかさを打ち出し、結果として男性に自己を表現する自由を与えた、と著者。そう見ると確かに、20世紀初頭の女性服デザイナーたちが自由を謳歌する女性を生み出したように、21世紀の男性服デザイナーたちは、押し付けられた男性らしさの枠にはまらない、繊細で自己表現にたけたしなやかな男性を生み出している。

革命が進行し、両者が合流するその先は、ジェンダーニュートラルな世界。すでに多くのブランドは男女コレクションを同じステージで発表している。社会の多くのステージでもこういう光景が見られる日が遠くないことを願う。

(服飾史家)